

編集後記

<編集顧問>

鈴木 秋悦
武田 佳彦
青野 敏博

<編集委員>

岡井 崇
神崎 秀陽
倉智 博久

この編集後記を書いている今日は、参議院選挙の投票日です。今回の選挙では、年金問題が大きな争点となっています。年金記録の不備は、われわれにとっても重要な問題です。われわれは、大学と関連病院との間で数回の行き来があるのが一般的ですし、留学期間などがありますと、さらに履歴は複雑なものとなります。しかも、大学の中でもわれわれの身分はまことに複雑で、研究生、大学院生、医員、そして助手（助教）以上の正規職員など、社会的にはさまざまな扱いとなる身分を複雑に渡り歩きます。これらの身分で年金の扱いは変わります。

私も自身の年金記録を調べてみましたが、案の定、間違いがありました。助手の期間の一部が社会保険庁の記録から脱落していました。助手の期間などは共済年金の記録にありますから、簡単に年金の支払いを証明できますが、このようなことがありますと、研究生の期間に未払いとなっても、「本当に払っていなかったのだろうか？」という疑念が付いて回ります。

年金記録の不備は当然のことながら国民の大きな関心事となりますし、今後はこのような不備が決して起こらない体制作りが必須と思われます。間違いが許されないのは、何もわれわれ医師だけではなく、

（倉智 博久）